

当施設の看取り介護での家族の思い

70歳代女性、アルツハイマー型認知症等のあるA様が、お看取りになる少し前に、ご主人様も当施設へご入所となりました。

ある時からA様は、大好きな食事を拒否するようになりました。介護職、ケアマネ、看護職等で様子を見ながら、タイミングを計り、ご家族へ状況を伝えました。ご家族からは、「施設で最後まで苦しまないようにお願いします。」と、ご意向がありました。

看取りが初めてというご家族へ、介護職・ケアマネ・看護職で、現在のお身体の状況で考えられることや今できることを丁寧に説明をしました。

A様の呼吸状態が変わった頃、2人の娘様がおりました。娘様から、「このままそばにいたい。」とご意向があったため、ベッド2台を介護職員・ケアマネと看護師で急いでメイキング致しました。

また、ご意向に沿ってご主人をお連れして、一家4人でゆっくり過ごせる環境を整えました。A様は数時間後に、ご家族に見守られ、穏やかに息を引き取りました。

後日、ご家族よりアンケートの協力をいただき、「いつまでも心に残るようなあの時間を、私たち家族と母のために作ってください、ありがとうございます。何か月経っても私たちの選択は間違っていなかったと思います。」と、暖かいお言葉がありました。

しかし同時に、「シフトの入れ換え等で、私たちの意見が伝わっていないこともあったようなので、連携をとってほしいです。」というご意見もありました。

とても貴重なご意見をいただき、連携についても再度確認しつつ、今後のケアに生かしていきます。

(荒川区立特別養護老人ホームサンハイム荒川・看護職)

